

編集後記

(59巻 第1号 2013年1月)

圧倒的大差で新政権が誕生した。3年前の政権交代では、大きな期待がかかっていただけに、国民の失望感が予想以上の大敗という形で選挙結果に反映された。東日本大震災という想定外の惨事が起こったという不運もある。しかし、このような困難な時こそ、国民の気持ちをつかみ、物事を前に進める大チャンスだったのにと残念に思う。

平時には誰がリーダーシップをとっても間違いは起こりにくい。しかし、今のような戦時には、リーダーの資質が大きく方向性を左右する。要するに、危機的状況に対応するために大切なことは、慣習とか知識とか情報などではなく、リーダーの感性であり覚悟であるように思う。新政権は今回の内閣を「危機突破内閣」と名付け、今が戦時であることを認識しているようだ。国民を導く感性と覚悟をみせてほしい。

(小川 修)